

# 令和5年度（2023年度）社会教育ベーシック講座 第2回 事業報告書

## I 事業の概要

### 1 事業名

令和5年度（2023年度）社会教育ベーシック講座 第2回

### 2 開催日時

令和5年7月31日（月）14:00～16:00

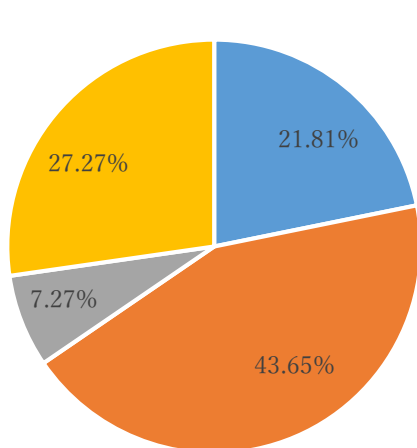
### 3 開催場所

Web会議システムZoom

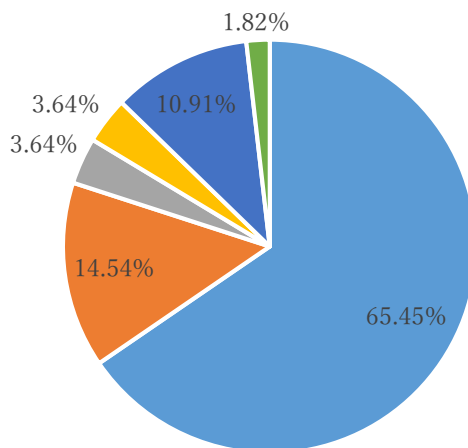
### 4 参加人数

55名

### 5 参加者の区分・経験年数



- 社会教育主事・主事補
- 教育委員会社会教育担当職員
- 教育委員会学校教育担当職員
- 教職員



- 1～5年目
- 6～10年目
- 11～15年目
- 16～20年目
- 20年目～
- その他（不明）

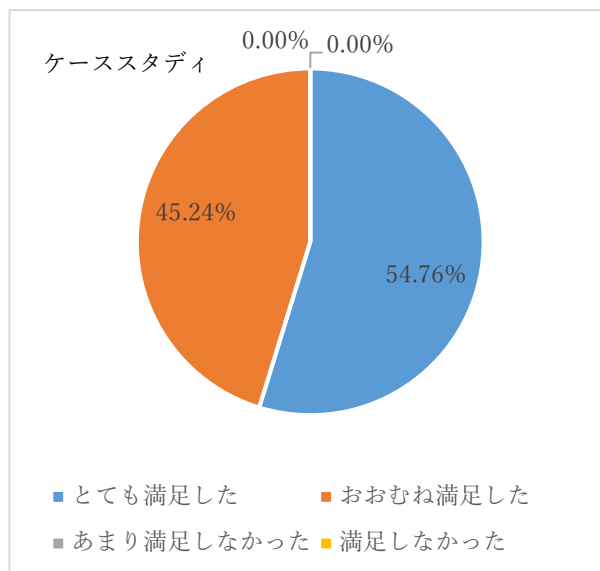
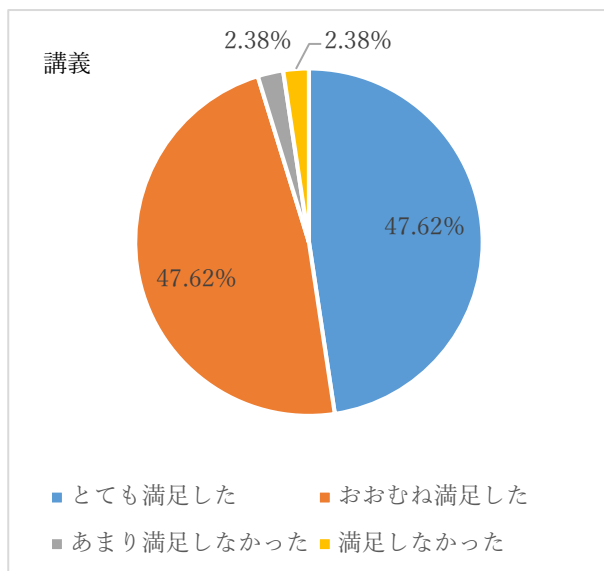
### 6 プログラム

	13:30	14:00	14:40	15:20	16:00
7/31	入室	講義	ケーススタディ	演習	閉会

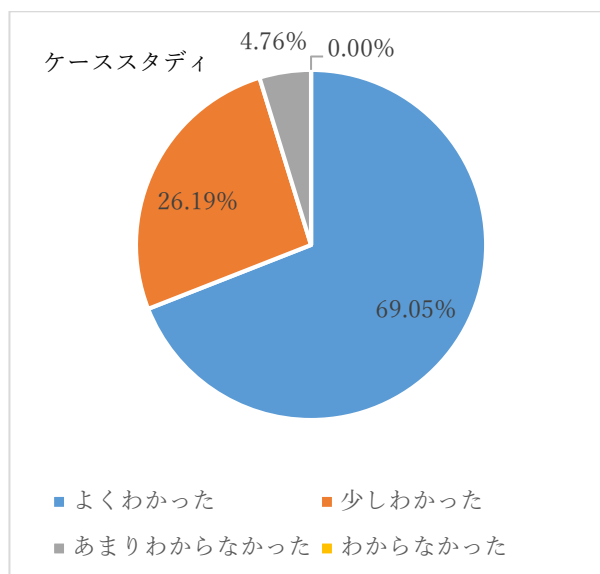
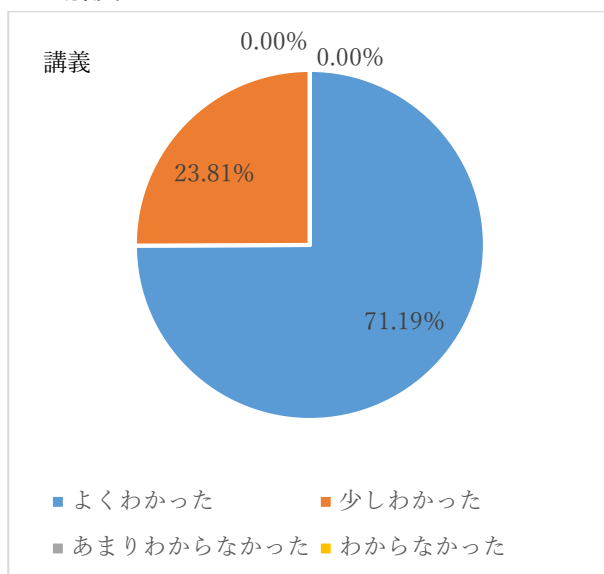
プログラム	講師等	内容
講義	【講師】 ・釧路市地域学校協働本部 統括的な協働活動推進員 森 敏隆 氏	・地学協働基礎講座広い意味での協働活動から、コミュニティ・スクールとの関連、重要性にしばって～
ケーススタディ	【講師】 ・北海道地学協働アドバイザー 青田 基 氏	・コーディネーターの役割について ～各地の特色ある事例から～
演習	【進行】 ・北海道立生涯学習推進センター	・感想、意見交流

## II アンケート結果

### 1 満足度



### 2 理解度



### 3 講義について、理解した点や気づいた点（自由記述）

- ・地域・学校の両方で共通認識を持つことが重要であると感じた。
- ・視点が、学校支援が中心となっているように感じた。
- ・他の地域の取り組みやコーディネーターの役割を理解できてよかった。
- ・共通の目的は、みんなで考えるということが印象に残った。
- ・地学協働は目的ではなく、手段であり、地域創生に向けて、上手に活用できたら良いなと感じた。
- ・地学協働を動かしていくには、人材とエネルギーがいることがわかった。
- ・コーディネーターに求められること、地学協働とは何かという根本的な理解が深まった。
- ・地域の創生を目指すという大きな目的を改めて認識した。現実にはまずは「楽しそうだから参加してみよう」という方のすそ野を広げる段階だが、大切な目的は見失わずにいきたい。
- ・共通の目的について、来月予定している熟議の場で確認できたらと思う。
- ・第一歩として、地域の方に学校の問題点、改善点に気づいてもらえるように開かれた学校を作っていくことが必要だと改めて感じた。
- ・事前にテキストを配布頂けたら、より理解出来たと思う。
- ・放課後児童健全育成事業と放課後子ども教室推進事業の一体化を推進し、放課後活動の充実を図っていきたい。
- ・勉強させていただくつもりで参加いたしましたが、とてもわかりやすく、他の自治体の方の話も聞けて、参考になった
- ・地域ぐるみで学校を支えていく理念を、いかに地域と共に作り上げていくかの難しさと重要性を改めて再認識した。
- ・一部の人だけでなく、地域の人みんなが地域学校協働活動について理解することが大切。それをどうやって知らせるか、知ってもらうかということも今後の課題であると思った。
- ・地学協働活動の基礎となる部分を解説していただき、地学協働の歴史や必要とされる経緯を理解することができた。
- ・どのような方が地域コーディネーターになっているかの分類が参考になった。
- ・コミュニティ・スクールや地学協働活動の歴史的な流れを知ることができ、推進していくことの重要性を更に感じた。これを手段として地域創生にほんの少しでも繋げていければと気持ちを新たにした。また、具体的なコーディネーターの資質や発掘の仕方などもとても参考になった。
- ・法律に基づいて運営され、活動していることを知った。
- ・コーディネーターの熱意が地学協働を支えていると感じた。
- ・学校のハブにした地域内連携の実践には可能性を強く感じた。PTA活動を歴任された方々の地元への造詣はとても深く、影響力が大きいと感じている。

### 4 ケーススタディについて、理解した点や気づいた点（自由記述）

- ・現在コーディネーターとして活動しているが、コーディネーターという肩書があまりに抽象的であると感じてしまう。周りに助けられて活動ができていますが、大きな何かを動かすには力が足りないように感じる。あくまで便利屋のような存在なのでしょうか？
- ・うちの町でもコーディネーターを育てていきたい。
- ・地域それぞれでできることが違うので、地域の状況をよく考えて未来を担う子どもたちのため、できることから始めて行きたいと思った。
- ・コーディネーターの役割、どのようにそのコーディネーターを発掘して、育てていくのかという視点が、とても参考になった。また、青田先生の最後の気づいてしまった人には自動的に責任が生まれるというお話しにも感銘を受けた。
- ・コーディネーターの役割が基本的な5つの業務に整理できることが理解できた。
- ・様々なところで自分のところの地域でコーディネーターを生み出すのは容易ではないということがわかった。
- ・活動を選ぶ際の3原則はたいへん参考になった。学校と地域がウィンウィンでなければ持続できないので。

- ・まとめの動画での「完璧でなくてよい、何者かでなくてよい」というお言葉に救われた。
- ・道立学校にも配置されると地学協働がより進むのではないかと思った。
- ・コーディネーターを目指して努力を続けたい！！
- ・コーディネーターはあとあとのことを考えると地域の人がやるのがベストなのかなと思った。1人でやるのは難しいかもしれないが、複数だと引き受けてくれるかもしれないと思った。
- ・コーディネーターをどのように見つけ、育成していくのかという視点や体制について理解することができた。
- ・ビデオに出ていた方の言葉が印象的であり、コーディネーターの役割について示唆に富んだものでした。完成された人間でなくていいんだと思う瞬間があった・・・という話。
- ・インタビューの途中で音声途切れたのが残念だった。彼女は、とてもハキハキと淡々と要点まとめて話されていて、好感がもてて、とても聴きやすかった。
- ・コーディネーターをお願いする際には、最後のインタビューのお言葉を貸していただければと思った。
- ・具体的なコーディネーターの資質や発掘の仕方など大変参考になった。コーディネーターをされている吉村さんのお話はとてもうなづけることが多かった。何より発表をされた青田さんやコーディネーターの吉村さんの前向きなお気持ち、姿勢に自分が勇気づけられた。
- ・国の予算があることを知りました。防衛費じゃなくて、子供達の教育に予算つけて欲しい。
- ・幼稚園から高校までPTA頼まれる方って大体決まっていて、同じ顔ぶれの人多いなと感じる。フットワーク軽く、会話上手、明るい方って頼まれる事多いですね。
- ・地域と行政・学校の繋ぎ役としてのコンサルタント業務が多く、地域のことを知らないとなかなか仕事に繋がらない、バランス感覚が求められると感じた
- ・コーディネーターの役割を整理されていたが、地域住民にそのまま説明した際に、コーディネーターの仕事が大変だなという印象を受けてしまうのではないかと感じ、説明が難しいと思った。
- ・実践しながらコーディネーターがスキルを磨いていく、という視点は大切だと思った。その一方で、短期的な成果を求められたり、基礎土台が形成された頃に任期が終わったりするなど、コーディネーターが戦略的に活動できない状況が生まれているような気がする。雑用係なら短期アルバイトでよいのではないかと考えている。ポストをつくって指をはじけば成果が降ってくる、という幻想を手放せない町や村の次の10年は、かなりキビしいだろうなと思う。

## 5 演習（感想・意見交流）について、理解した点や気づいた点（自由記述）

- ・進行が話をする人を指定していたが、発言できない人が半数だった。進行方法を工夫したほうが良い。地学協働を進めている道教委なのに「私も何もわからない」と発言していた。主催者がこのような姿勢でよいのだろうか。
- ・それぞれの地域の状況についてご助言いただくことができた。
- ・皆同じようなところで、悩んでいることがわかった。
- ・どの方も行動に移すことに壁を感じていると思いました。どのように熟議していくのか、コーディネーターを探していくのか、ある程度行政が音頭をとって学校におろしていくことが必要なのではと感じた。
- ・最近の報道でコミュニティ・スクールを教員の働き方改革に活用する案が出てきて驚いた。そのへんの折り合いの付け方について話題が及び、タイムリーで参考になった。少し時間が余ってましたので、発言のない方に求めるとより有意義だったかもしれない。
- ・人数が多いからか、少しやりにくかったです。
- ・情報配信の仕方がどこの自治体も課題なんだと思いました。
- ・都市部では都市部の、地方では地方の課題があっみなさん悩んでいらっしゃるということがわかった。
- ・具体的な連携可能外部機関をご教授いただくことができた。
- ・学校・地域からの視点の他に、子どもからの視点も大切であるという意見があり、その通りだと気付かされた。
- ・今こそ、学校を中心に人づくり、地域づくりを進めなければならない。私自身、前任校で3年間

「地域とともにある学校づくり」を進めてきた。今日話を聞いて、それらの取組を整理したり、これからやるべきことを考えることができた。まずは、校長が学校経営方針に「地域協働」（私は地域共創科を新設しました）をしっかりと明記して、地域に広報活動を行うことが重要だと考える。また、大規模校や都市部の学校には人と人をつなげるコーディネーターを配置すべきだと考える。小規模校やへき地校は校長がやる方が適任。北海道は3分の1がへき地校。道教委や市町村教委は、学校規模の適正配置の考えを見直す必要がある。地域の存続をかけて、学校を中心に地域づくりをしようとしても、適正配置の考えが障害となっている事実がある。小さな学校はどんどんなくなってしまっているので、地域づくりどころかマイナスの方向に向かっている。道や市町村が小規模校を大切にす方向性を出さなければ、地学協働はなかなか進めることは難しいし、進めるならば校長には相当の覚悟が必要になってくると思う。何もしないで静かな日々を過ごしていたら残念ながら閉校→地域の過疎化が進むばかり。元気な北海道、元気な日本にするには何をすべきかを考えていきたいものである。

- ・ 学校関係者の参加も多いように見えたが、班分けに偏りがあったように感じた。フリータイムとするよりは、感想などを交流する時間と割り切った方が良かったように感じた。
- ・ グループ分けをどのようにしていたのだろうか。同じ市町村が入っていたり、同じ管内が多かったりしていた。
- ・ ブレイクアウトルームでの交流をもう少しできればと感じた。

## 6 社会教育ベーシック講座全体を通しての感想や気づいた点（自由記述）

- ・ 地学協働とよくお聞きしますが、大枠が整わないと（CSの設立、対話の場の設定など）大きな波を起こすことは難しいと感じる。ひとりのコーディネーターとしては、小さな働きかけを継続的に行うことで少しずつ波を起こしていけるのかと考えた。
- ・ 参加者の受講態度が気になった。事務局からカメラのオンオフを呼び掛けてもよかったのでは。
- ・ 120分間休憩なしは参加者の集中力の持続の観点から厳しいと思う。
- ・ 地域学校協働活動を推進することに100%賛成。自分にできることから少しずつ関わりしるを増やしながら、中間支援を行うことができる人材になりたい。
- ・ 課題など事前に聞いて、その対策や成功例を紹介するという講座があるといいと思った。
- ・ 実践例や進め方の交流がしたい。
- ・ 未来の社会を想像した時、生徒の各個人に合った資質能力を伸ばさせる必要があります。そのために地域コーディネーターの皆様は不可欠だと感じた。
- ・ 理念や形式は広まっているものの、CSや地域学校協働本部がしっかり機能しているかどうかは、地域によって様々であり、どこも苦労していることがわかった。
- ・ 講師の皆さんのプレゼンテーションはとても明快で学ぶことが多かった。何より実践してきた人がもっている熱意を感じた。その一方で、主催者側が設定した外枠が判然としない印象を受けた。誰が、誰に向けて行う研修なのか、どんな状態になることをめざした研修なのか、いまいちピンとこなかった。行政、地域住民、経済関係者、教育関係者、など、それぞれの立場の皆さんが、つなぎ手を担うコーディネーターに何を求めているのか、は市町村によって様々だと思う。どこの町（村）では〇〇な人たちが△△という課題を抱えていて、周りの人は、それをどう捉えていて、コーディネーターが関わって☆☆が実施されたことで、人々の考え方や行動がどのように変容し、その結果、町（村）がどんなふうに変化したか、という流れに注目したケーススタディを期待する。